

2023年3月期 第1四半期 決算短信補足資料



2023年3月期 第1四半期 サマリー

- ・コスト上昇圧力が強い中、経常利益では前年並みを維持も、税負担が増加し純利益は減益。
- ・食品の苦戦を水産がカバーできており、計画に対する進捗率は順調。

- 水産は前期から引き続き消費が堅調なうえ魚価にも恵まれ増収増益。
- 食品は増収もコストアップ影響が大きく減益。

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年同期比		2023年3月期 計画	進捗率
			増減	増減率(%)		(%)
売上高	1,654 億円	1,842 億円	188 億円	11.4	7,200 億円	25.6
営業利益	70 億円	66 億円	▲3 億円	▲5.3	225 億円	29.7
経常利益	74 億円	73 億円	▲1 億円	▲1.5	255 億円	28.9
四半期 純利益	51 億円	42 億円	▲9 億円	▲18.4	180 億円	23.5

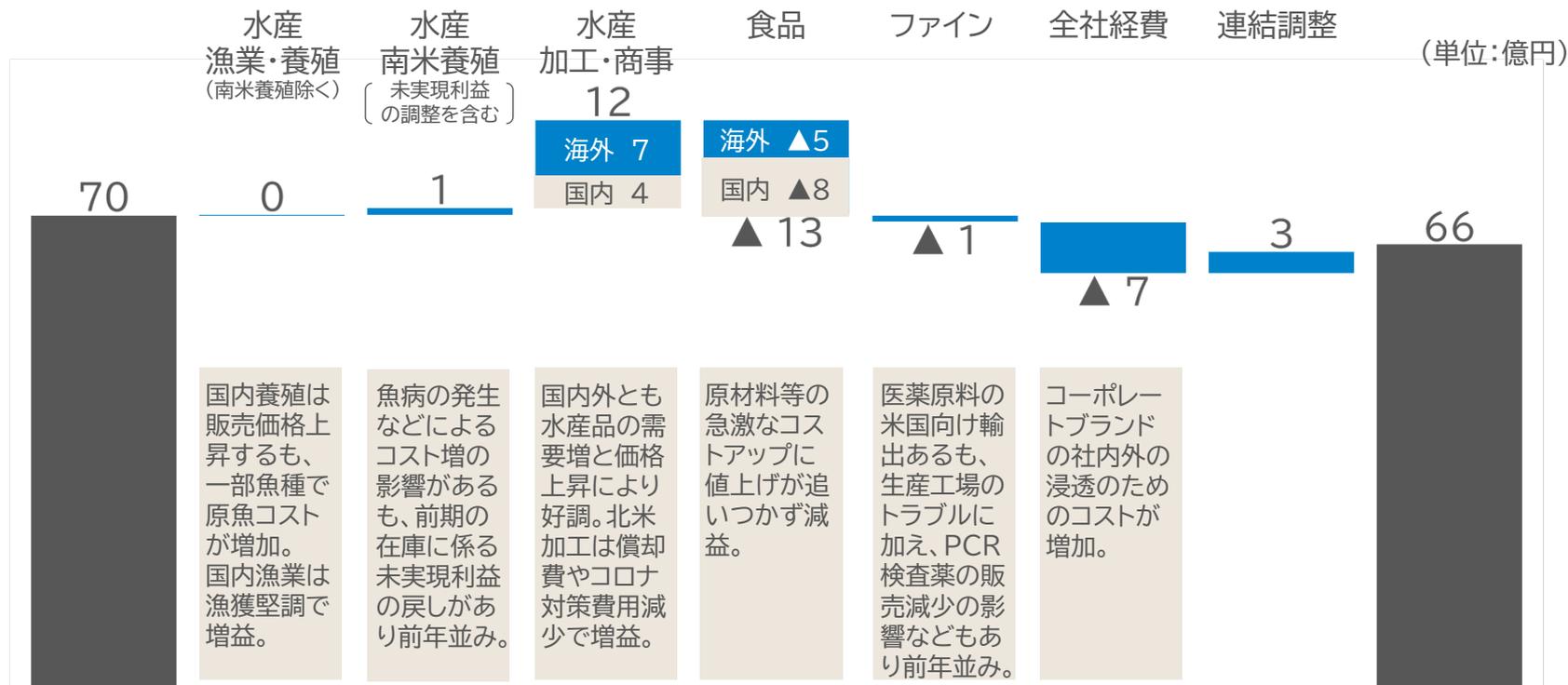
2023年3月期 第1四半期 セグメント別概況

為替影響約50億円を含め、水産・食品が大幅増収。

(単位:億円)	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	1,654	1,842	188	11.4
水産事業	635	757	121	19.2
食品事業	840	929	88	10.5
ファインケミカル事業	78	81	3	4.3
物流事業	39	39	▲0	▲0.6
その他	59	34	▲25	▲42.1
営業利益	70	66	▲3	▲5.3
水産事業	21	41	20	95.5
食品事業	51	36	▲14	▲28.9
ファインケミカル事業	10	8	▲1	▲15.7
物流事業	5	4	▲0	▲15.5
その他	1	1	0	40.4
全社経費	▲19	▲26	▲6	36.2
経常利益	74	73	▲1	▲1.5
親会社株主に帰属する四半期純利益	51	42	▲9	▲18.4

2023年3月期 第1四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

- 消費堅調で大幅増益の水産が、原材料価格上昇と値上げ時期のズレで苦戦する食品をカバー。
- コーポレートブランド浸透に向けた投資もあり全社経費は増加。



2023年3月期 第1四半期 連結貸借対照表(前期末比)

前期末比では運転資本が増加。

()内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産	2,846	(+195)	流動負債	1,946	(+167)
現金及び預金	145	(+7)	支払手形及び買掛金	544	(+41)
受取手形及び売掛金	962	(+59)	短期借入金	980	(+148)
棚卸資産(在庫)	1,536	(+95)	未払費用	260	(+8)
固定資産	2,449	(+42)	固定負債	1,174	(▲18)
有形固定資産	1,495	(+41)	長期借入金	919	(▲29)
無形固定資産	117	(+4)	純資産	2,175	(+89)
投資その他の資産	836	(▲3)	自己資本	1,985	(+87)
総資産	5,295	(+238)	自己資本比率		
			'22/3	37.5%	⇒ '22/6
					37.5%

2023年3月期 第1四半期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

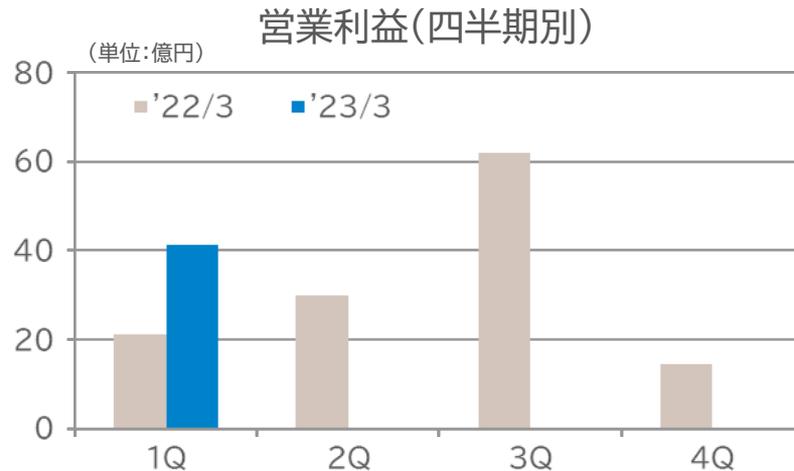
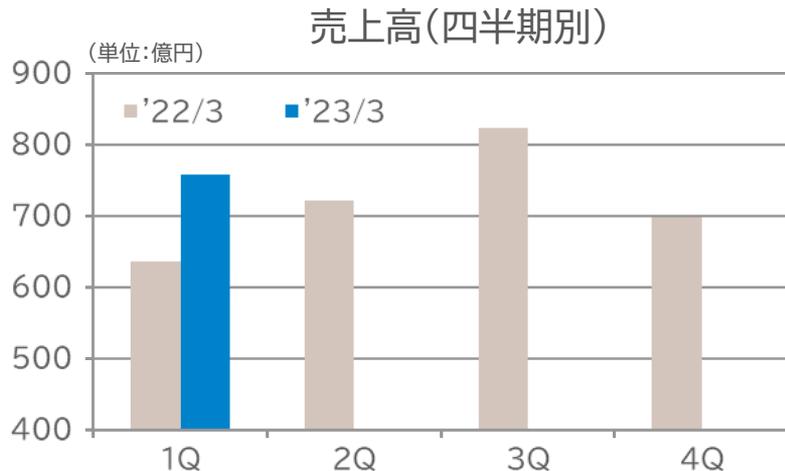
CFは概ね前年と同水準。

(単位: 億円)	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	増減
・税金等調整前当四半期純利益	76	75	▲ 0
・減価償却費(のれん償却含む)	47	47	▲ 0
・運転資本	▲ 94	▲ 74	19
・法人税等の支払額	▲ 29	▲ 44	▲ 15
・その他	▲ 42	▲ 38	4
営業活動によるCF	▲ 42	▲ 34	7
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 45	▲ 60	▲ 15
・その他	7	28	21
投資活動によるCF	▲ 38	▲ 31	6
・短期借入金の増減額	131	126	▲ 5
・長期借入金の増減額	▲ 8	▲ 29	▲ 20
・その他	▲ 20	▲ 28	▲ 7
財務活動によるCF	102	68	▲ 33
現金及び現金同等物の期末残高	169	163	

2023年3月期 第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

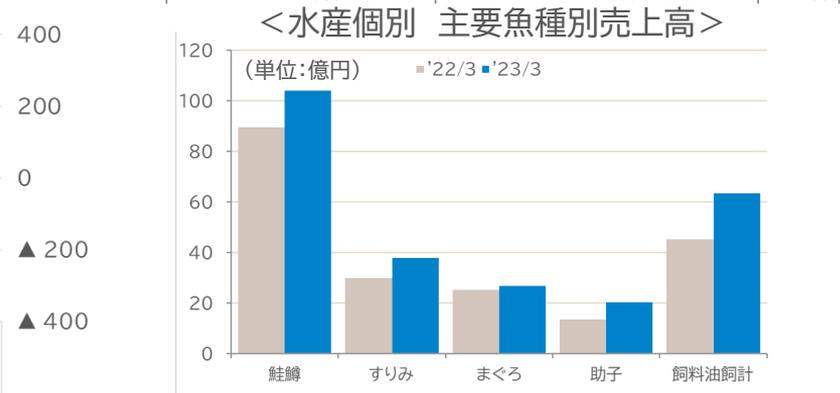
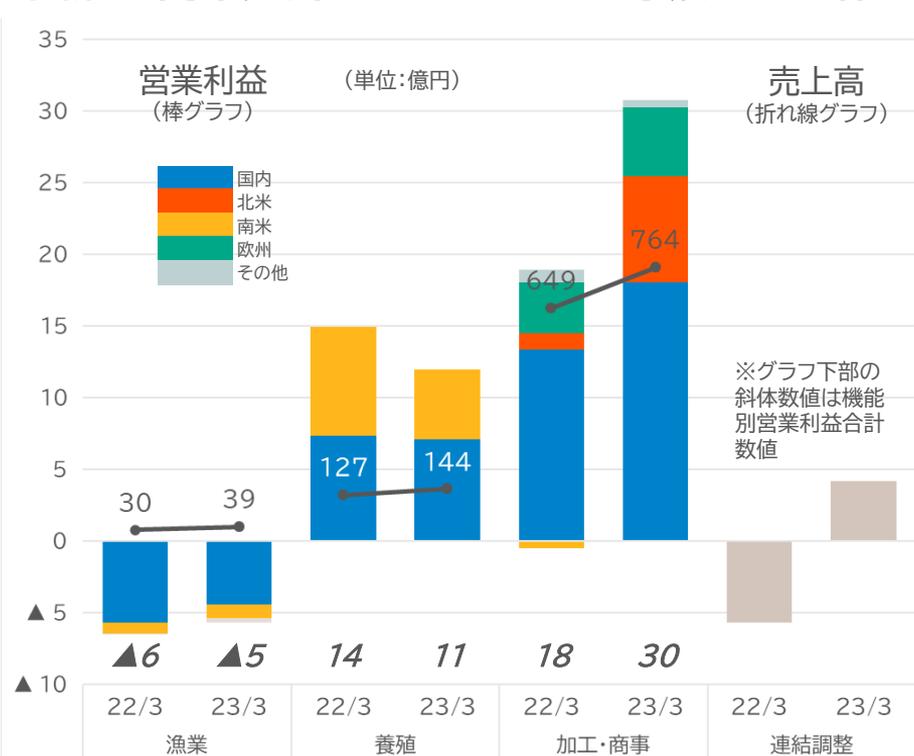
販売好調に加え約20億円の為替影響もあり大幅増収。

(単位:億円)	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	635	757	121	19.2
営業利益	21	41	20	95.5



2023年3月期 第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

- 加工商事は販売好調に加え、北米での経費削減などもあり増益。
- 養殖は南米鮭鱒やまぐろなどで原魚コスト増もあり若干減益。

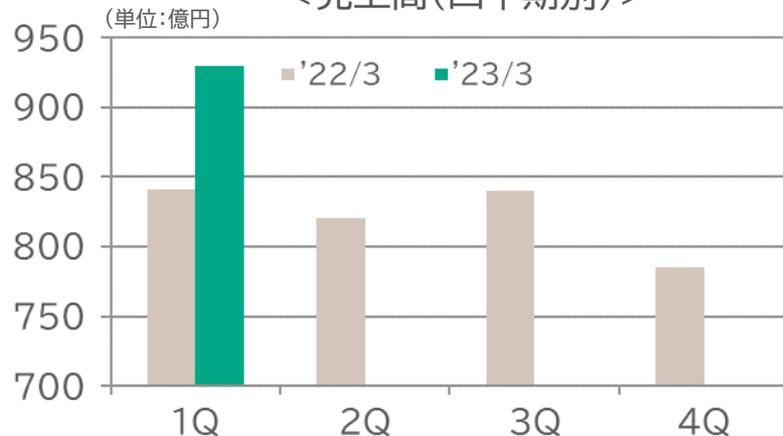


2023年3月期 第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

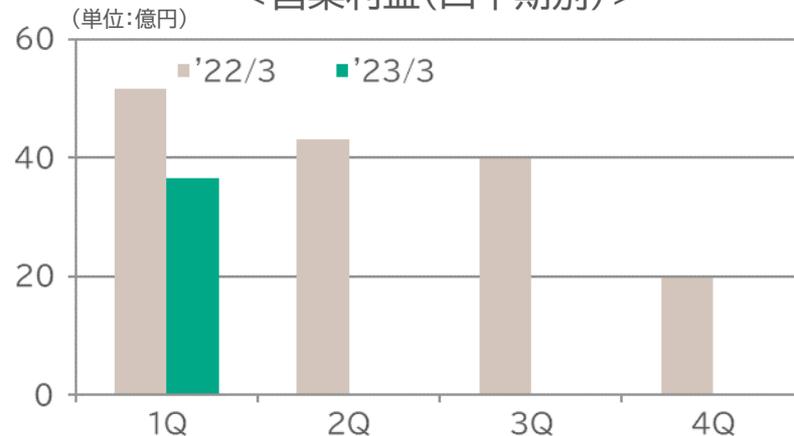
- ・販売数量の増加に加え、円安や値上げによる販売価格上昇の影響も増収に寄与。
- ・急激なコストアップに対し値上げが追いついていない。

(単位:億円)	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	840	929	88	10.5
営業利益	51	36	▲14	▲28.9

<売上高(四半期別)>

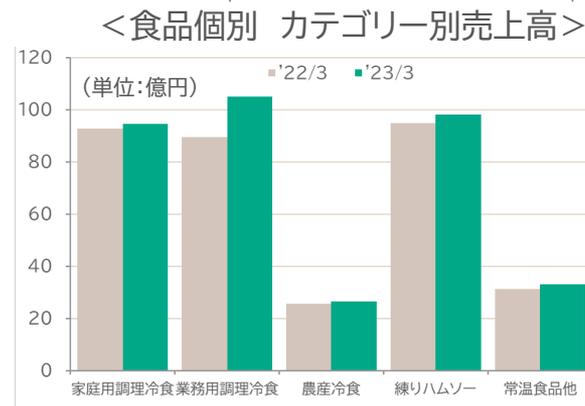
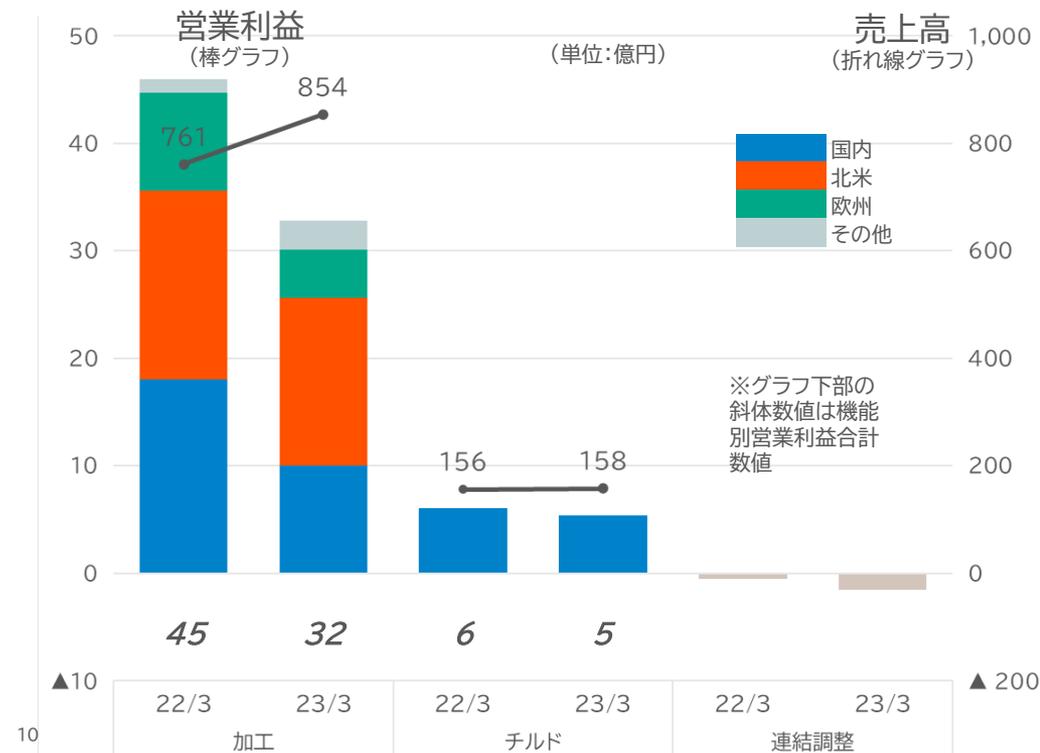


<営業利益(四半期別)>



2023年3月期 第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

- ・北米は家庭用は値上げを実施し販売も好調維持するも業務用が苦戦し若干減益。
- ・日本と欧州は原材料他コストアップの影響を受け減益。

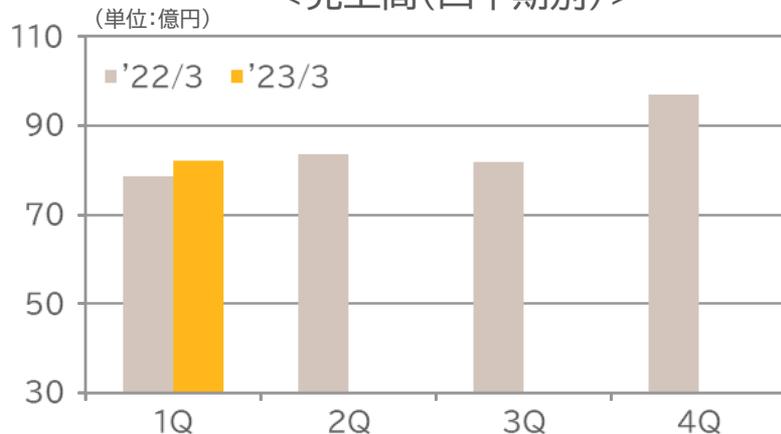


2023年3月期 第1四半期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

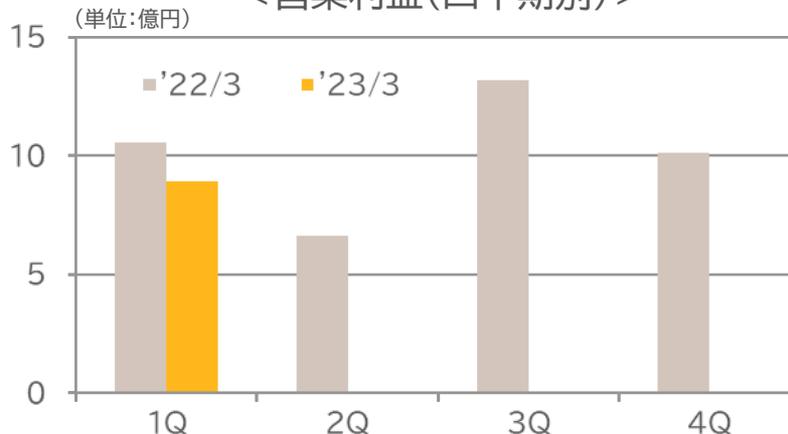
- ・医薬原料の輸出があり増収も、生産トラブルで工場収支が悪化。
- ・前期急増したPCR検査薬販売が減少。

(単位:億円)	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	78	81	3	4.3
営業利益	10	8	▲1	▲15.7

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>

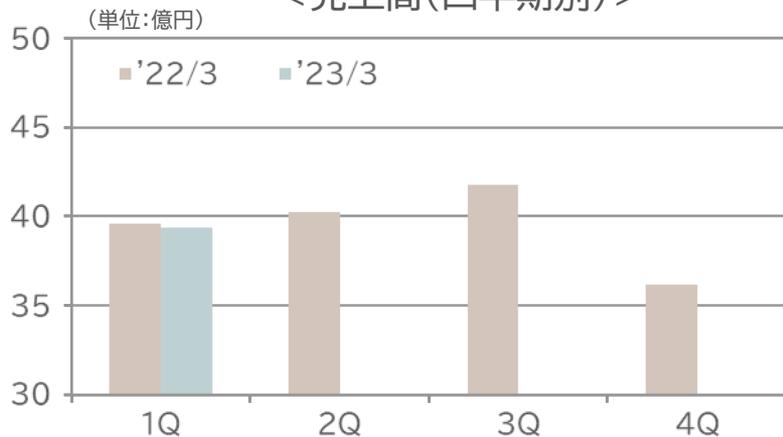


2023年3月期 第1四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

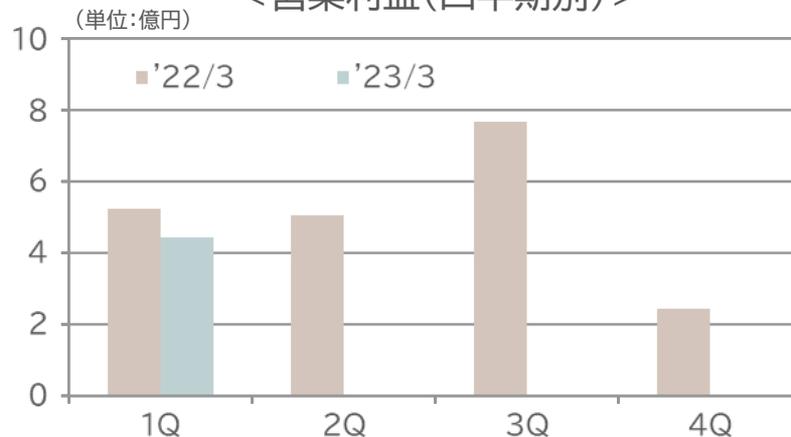
通関事業が堅調に推移も冷蔵倉庫事業が振るわず、電力料他コストアップもあり前年並み。

(単位:億円)	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	39	39	▲0	▲0.6
営業利益	5	4	▲0	▲15.5

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>



TCFD提言に基づく情報をウェブサイトの開示

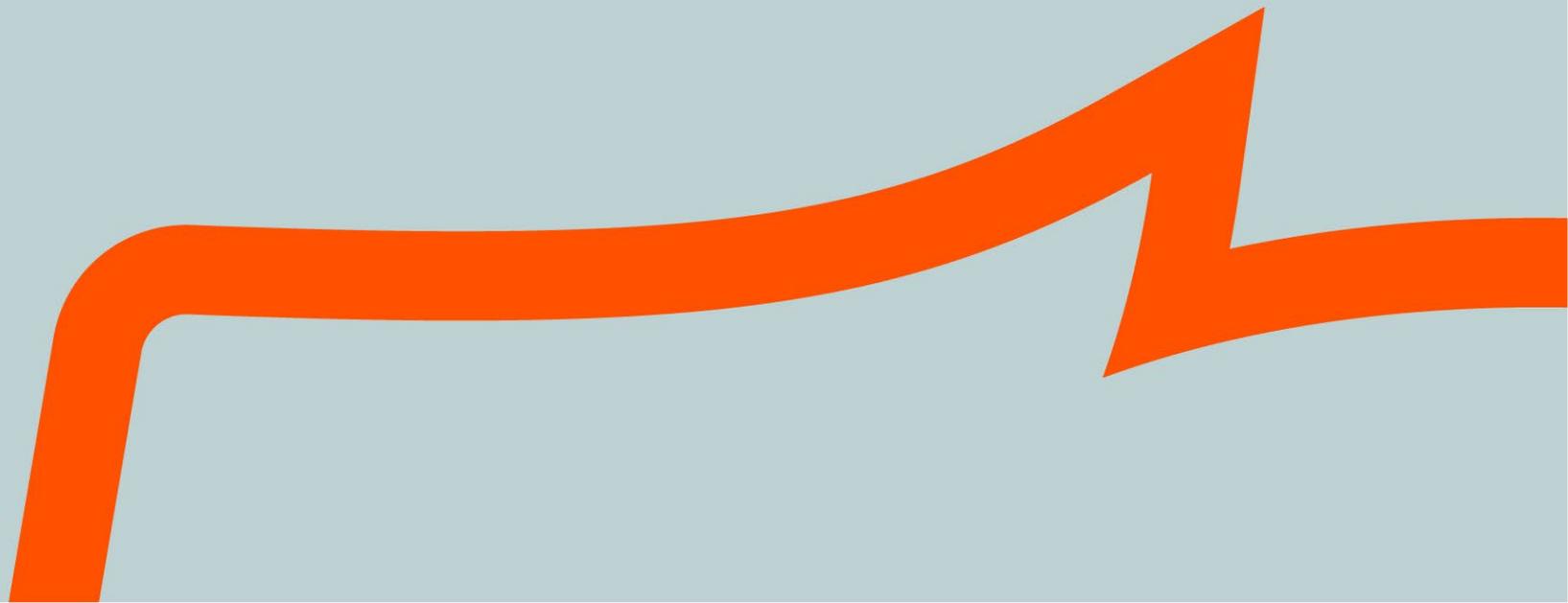
気候変動に係るリスクと機会の特定、シナリオ分析を通じた事業インパクトと財務への影響の評価、対応策の策定を実施し、TCFDの提言で推奨されている情報について当社ウェブサイトにて詳細を6月下旬より開示

- 一 TCFDが推奨する「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の4つの開示項目
- 一 売上の90%以上を占める水産事業と食品事業を対象に、気温上昇が1.5～2℃および4℃の2通りの想定シナリオの分析
- 一 上記個々におけるリスク・機会の抽出、2030年における財務インパクトの評価と対応策の検討
- 一 本年度より着手している中期経営計画の戦略への反映



<https://nissui.disclosure.site/ja/themes/223>

今後の見通し・取組み



国内外で水産市況の動向を注視し、在庫マネジメントを徹底する。

▶ 国内・海外商事事業

- ― 需給バランス・価格形成の面において先行き不透明な状況が続くため、仕入と在庫の管理を徹底する。

▶ 国内養殖事業

- ― (まぐろ)2つの養殖会社の協働によるコスト削減。
大型畜養まぐろの数量拡大。
- ― (ぶり)完全養殖の優位性を活かすべく、出荷時期を見極めながら価値最大化を追求。
大型生簀への転換により、数量増や作業集約によるコスト削減などをさらに進める。

▶ 南米養殖事業

- ― フィレ製造ラインへの投資により高付加価値品販売を拡大し、収益力を向上させる。
- ― 生簀繰りによる減産や飼料代高騰などの養殖コスト増加により厳しい事業環境が続く。

▶ 北米加工事業

- ― 前期での減損処理による償却費減少やコロナ関連コスト減少などで増益を見込むと同時に、進行するBシーズンに向けた最適生産性を目指す(フィレの生産増を目指す)。

小売店が求める機能を当社が集約して対応

▶ 水産流通の一連の機能を一括受託

お客様の代わりに在庫管理からお届けまで担う取組み



- 在庫管理する「商品保管機能」
- バックヤードの代行として水産物を加工する「加工機能」
- センター業務の代行を行い集荷から出荷までの「ピッキング機能」

▶ 当社のメリット … 受託に関する収入に加え、当社グループの水産物の取扱い拡大と食材化の推進につなげる

受発注・決済業務 ▶ 加工手数料収入 ▶ 冷蔵倉庫の稼働向上 ▶ ピッキング・配送料収入



当社・グループ会社の養殖・冷凍品および高付加価値化(食材化)商品の取扱い拡大



国内生産品



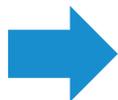
輸入品



水産食材品

持続可能な水産資源を活用し、当社の独自技術で付加価値（簡便・ヘルシーなど）を高める

▶ 「おさかなミンチ」商品の拡充



おさかなミンチをボール状に加工し野菜を加えた商品。惣菜売場や外食、病院向けのヘルシー商品。

おさかなミンチとは・・・
=白身魚をミンチ状にし、肉のように扱える食材



調理例：おさかなミンチのつくね風団子

▶ 簡便調理商品の拡充



袋ごと電子レンジで温めるだけで食べられるえび商品。
（宅配・通販向け冷凍品）

今後の打ち手・取組み：食品事業（2022年秋冬新商品）

社会環境予測から複数のターゲットを設定し、それぞれのニーズに応える商品を提供

簡便＋ヘルシー



ニッスイ独自の大豆ミートを使用したワンプレート商品
畜肉不使用でコレステロール含有量ゼロ

簡便＋本格味わい



新たな生活スタイルと社会環境に対応したワンプレート商品

健康志向



魚肉ソーセージに関節軟骨の維持に役立つN-アセチルグルコサミンを配合した機能性表示食品

調理負担の軽減



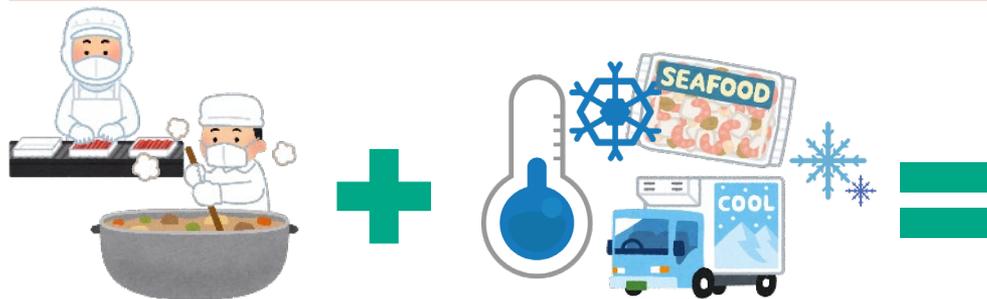
オーブン調理が可能になったことで、食用油高騰の影響を軽減することが出来る商品

今後の打ち手・取組み : キューディッシュ

チルド事業で培った多くの食材から安全・安心を担保し、様々なメニューを生産する機能と、冷凍技術を掛け合わせた事業。

▶ チルド・冷凍のノウハウを活用し、新しい「食」を提供
和洋中バラエティに富んだメニューを、電子レンジなどで温めるだけで味わえる

- － 温めるだけの手軽な調理で内食需要の伸長に対応
- － 添加物削減で美味しさを向上
- － 賞味期限が長く設定できるため、フードロス削減につなげる



チルド事業で培った食材加工技術と冷凍食品で得た
冷凍技術の強みを掛け合わせ

「キューディッシュ」商品のイメージ



今後も更なるメニュー拡充を検討

今後の打ち手・取組み : 欧州食品事業の拡大

需要拡大に対応するために生産機能の拡大・新設
現生産能力の約20%増を目指す

▶ 加工工場を買収

- ー 白身魚フライ・代替タンパク製品製造を生産する工場
- ー 冷凍・チルド双方の生産が可能。

▶ ドイツを中心としたフランス国外輸出や代替タンパク製品拡大に対応するため新工場を建設

- ー フランス北部に生産拠点を新設(2024年稼働見込)



欧州向け医薬原料の展開に備え、生産販売の両面での体制を整える



▶ 医薬原料

- 米国における販売鈍化への対応を検討中
- 欧州への展開に向けた品質保証体制の強化、早期の登録申請に向けた準備を継続
- 生産工場はトラブルにより生産調整中、9月ごろ稼働を再開する

▶ 機能性食品・通販

- DHA由来商品を中心に、さらなる商品展開を準備中
- ドラッグストアとの協働による小売市場への展開、(速筋タンパク粉末飲料など)



社会課題解決の取組み(2022年秋冬新商品:地球環境に配慮した商品)

プラスチックトレーを使用しない環境に配慮した容器包装への取組み

▶ トレーと紙カップを使用しない冷凍副菜



▶ 紙素材のトレーを使用した冷凍惣菜



ニッスイ独自のエコマーク
「みらいの海へ」

容器包装のプラスチック削減に関する取組みとして、新商品11品
およびリニューアル品7品についてエコマークを表示(冷食・加食)
現在すでに家庭用冷凍食品・加工食品の7割弱のアイテムで取組み



表示例:



プラスチックは廃棄物や海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化問題など様々な社会課題に関わっています。

ニッスイグループは事業を通して、プラスチックの3R+Rを推進します。

Reduce(発生の抑制)・Reuse(繰返しの使用)・Recycle(再利用)+Renewable(再生可能資源に置き換え)

A close-up photograph of a person's face, focusing on the eye and nose. The person has dark hair and is looking slightly to the right. The background is a soft, light blue. A large, thick orange arrow graphic starts from the top left, points down, then right, then down again, and finally right towards the person's eye.

まだ見ぬ、食の力を。



足下は急激なインフレや円安など
難しい環境が予想されますが、
変化への対応力を上げ、
長期ビジョン「人にも地球にもやさしい食を
世界にお届けするリーディングカンパニー
(Good Foods 2030)」
達成に向けて取組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



まだ見ぬ、食の力を。

日本水産株式会社

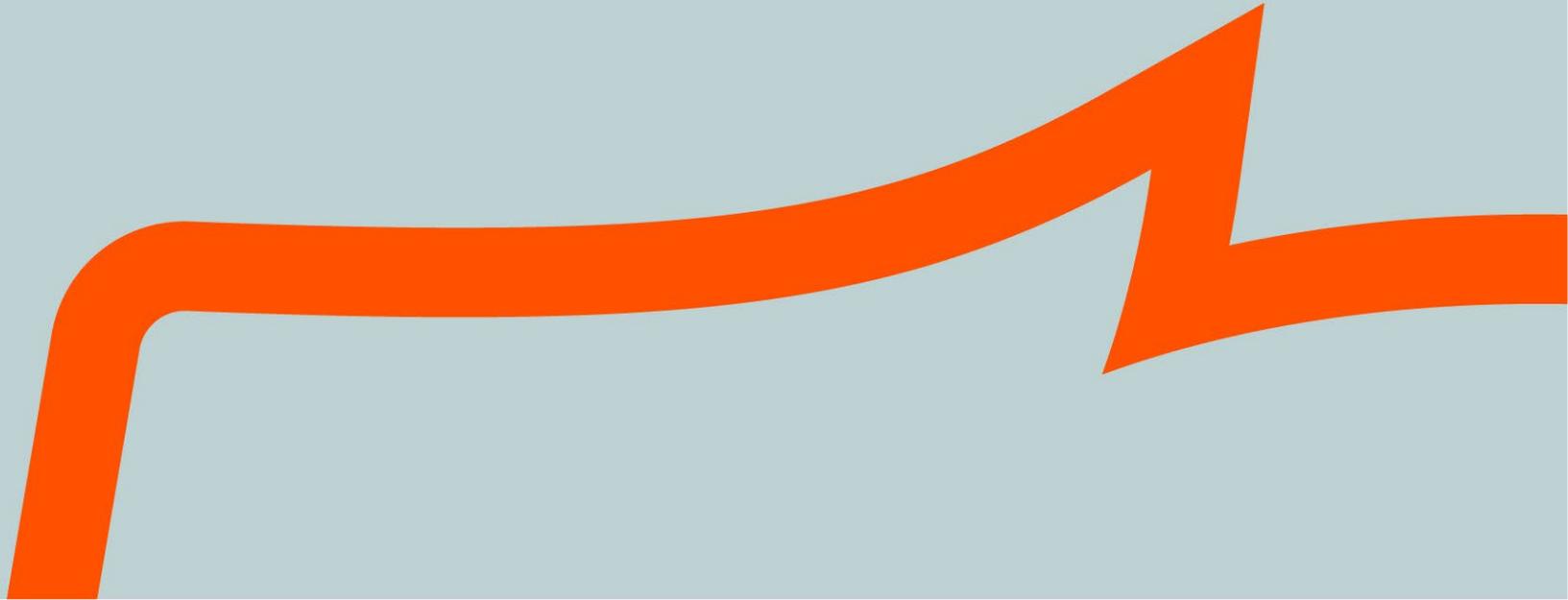
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課

03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

參考資料



2023年3月期 第1四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	増減	主な増減要因
売上高	1,654	1,842	188	
売上総利益	275	296	20	
販売費・一般管理費	205	229	24	
営業利益	70	66	▲ 3	
営業外収益	8	10	2	為替差益+6 持分法投資利益▲4
営業外費用	4	3	▲ 0	
経常利益	74	73	▲ 1	
特別利益	4	11	7	関係会社株式売却益+10 投資有価証券売却益▲2 受取保険金▲1
特別損失	2	9	6	投資有価証券評価損+4 災害による損失+2
税金等調整前四半期純利益	76	75	▲ 0	
法人税等	17	23	5	
法人税等調整額	5	8	3	
四半期純利益	53	44	▲ 9	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1	2	0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	51	42	▲ 9	

2023年3月期 第1四半期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート

主要在外会社の 為替換算レート	2022年3月期 第1四半期		2023年3月期 第1四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	347	372	396	467	49	95	52	42
EUR(百万ユーロ)	91	117	98	129	6	11	8	3
DKK(百万クローネ)	684	118	833	147	149	29	25	3
その他通貨	—	58	—	77	—	18	13	4
計		666		821		154	100	53

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第1四半期の平均

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	変動率
米ドル(USD)	107.15 円	117.79 円	9.9%
ユーロ(EUR)	128.44 円	131.57 円	2.4%
デンマーククローネ (DKK)	17.28 円	17.68 円	2.4%

2023年3月期 第1四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	559 (67)	142 (31)	67 (14)	14 (▲1)	163 (28)	947 (139)	▲190 (▲17)	757 (121)
	492	111	53	16	134	808	▲172	635
食品事業	581 (12)	256 (49)		24 (8)	150 (23)	1,012 (94)	▲83 (▲5)	929 (88)
	569	206		16	126	918	▲77	840
ファイン 事業	87 (2)			1 (▲0)		88 (2)	▲6 (1)	81 (3)
	85			1		86	▲7	78
物流事業	73 (4)					73 (4)	▲34 (▲4)	39 (▲0)
	69					69	▲30	39
その他 事業	65 (▲9)			0 (0)		65 (▲9)	▲30 (▲16)	34 (▲25)
	74			0		74	▲14	59
仮計	1,367 (76)	399 (80)	67 (14)	41 (7)	313 (51)	2,188 (231)		
	1,290	318	53	33	261	1,957		
連結調整	▲227 (▲20)	▲38 (▲5)	▲45 (▲9)	▲29 (▲4)	▲4 (▲1)		▲346 (▲42)	
	▲206	▲32	▲36	▲24	▲2		▲303	
連結 計	1,139 (55)	360 (75)	21 (4)	11 (2)	309 (50)			1,842 (188)
	1,083	285	16	9	258			1,654

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

2023年3月期 第1四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	20 (5)	7 (6)	3 (▲2)	0 (▲0)	4 (1)		36 (10)	4 (9)	41 (20)	5.4 (2.1)
	15	1	6	0	3		26	▲5	21	3.3
食品事業	15 (▲8)	15 (▲1)		2 (1)	4 (▲4)		38 (▲13)	▲1 (▲0)	36 (▲14)	3.9 (▲2.2)
	24	17		1	9		52	▲0	51	6.1
ファイン 事業	8 (▲1)			0 (▲0)			8 (▲1)	0 (0)	8 (▲1)	10.9 (▲2.6)
	10			0			10	0	10	13.5
物流事業	4 (▲0)						4 (▲0)	0 (▲0)	4 (▲0)	11.3 (▲2.0)
	5						5	0	5	13.2
その他 事業	2 (2)			0 (▲0)			2 (2)	▲1 (▲1)	1 (0)	5.0 (2.9)
	0			0			0	0	1	2.1
全社経費						▲25 (▲7)	▲25 (▲7)	▲0 (0)	▲26 (▲6)	
						▲18	▲18	▲0	▲19	
仮計	51 (▲3)	22 (4)	3 (▲2)	3 (0)	9 (▲3)	▲25 (▲7)	65 (▲11)			
	55	18	6	2	12	▲18	76			
連結調整	2 (6)	▲2 (▲3)	2 (4)	▲0 (0)	▲0 (▲0)	0 (0)		1 (7)		
	▲4	1	▲1	▲0	▲0	▲0		▲5		
連結 計	53 (3)	20 (0)	6 (2)	2 (0)	8 (▲3)	▲25 (▲6)			66 (▲3)	3.6 (▲0.6)
	50	20	4	1	12	▲18			70	4.3

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

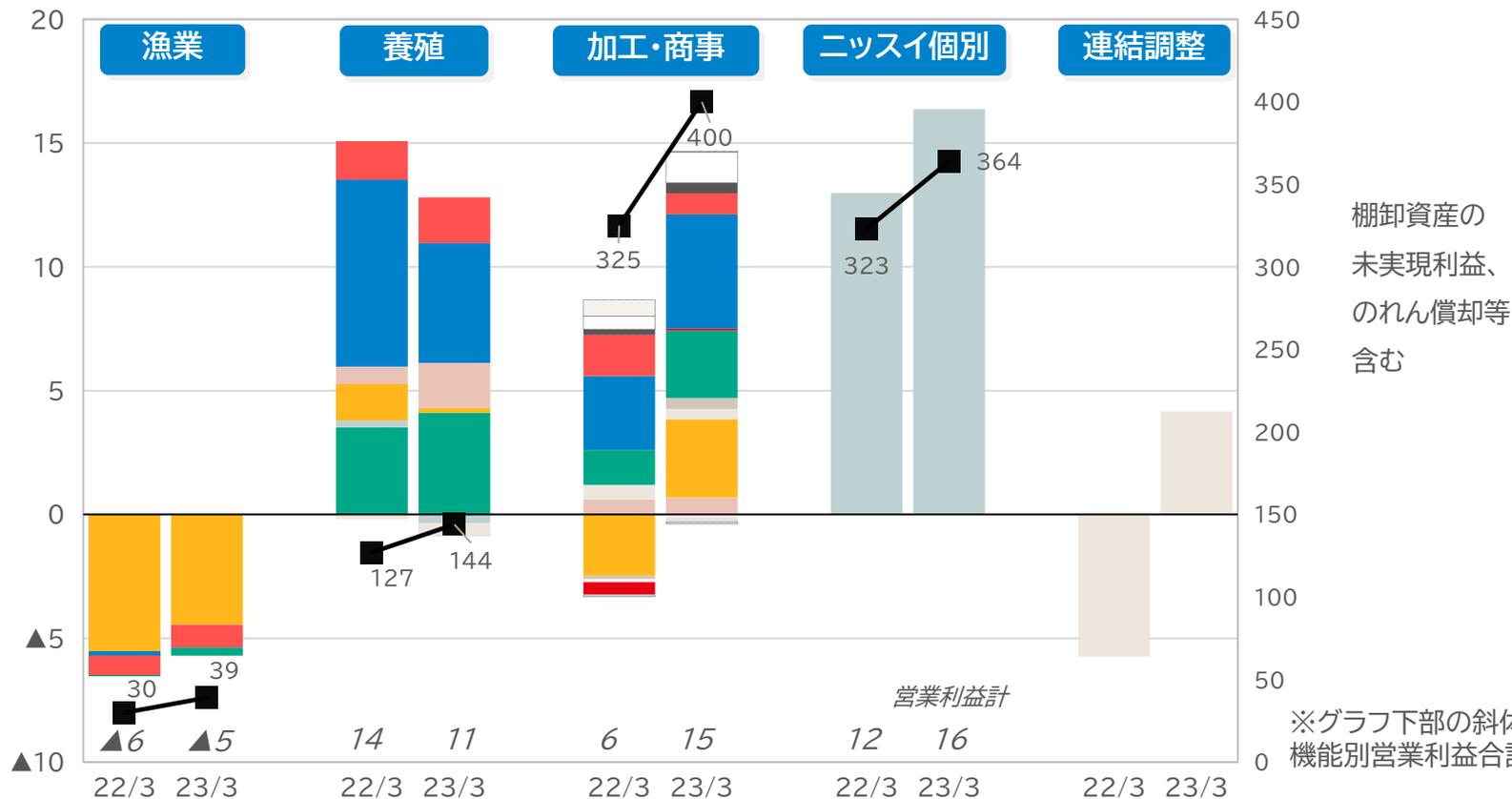
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

2023年3月期 第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

(単位:億円)

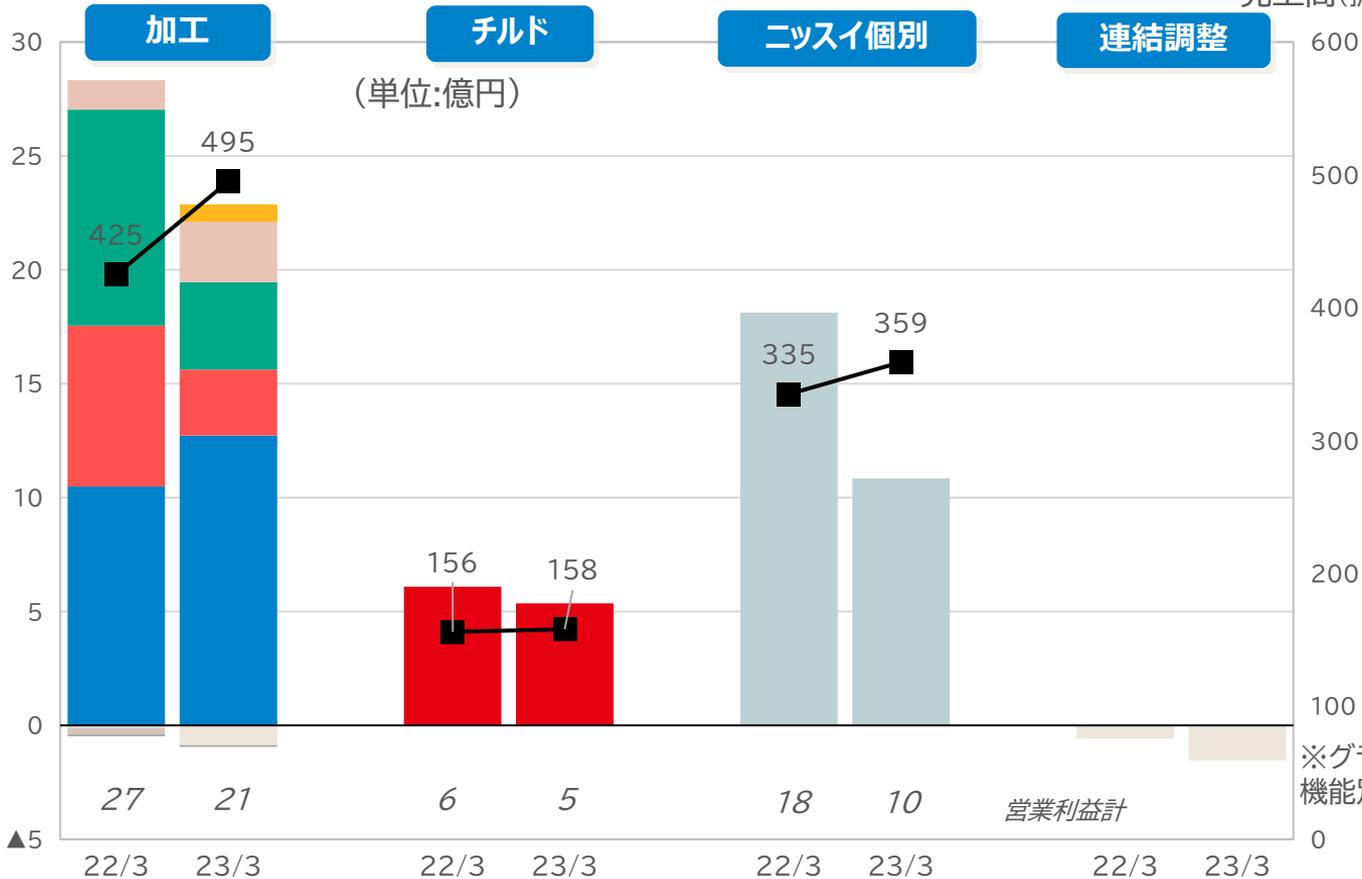
売上高(折れ線グラフ)



2023年3月期 第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

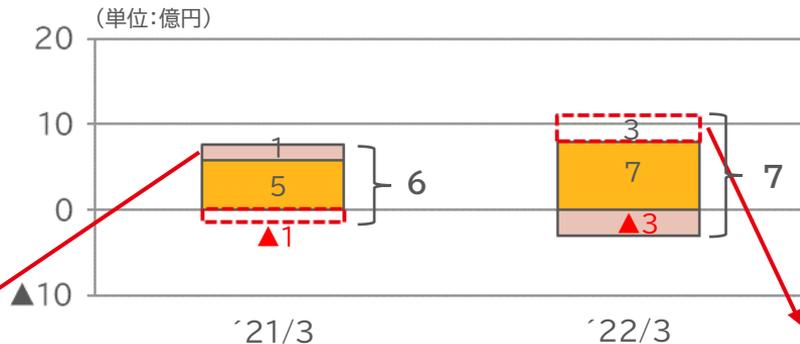
営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)



※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

未実現利益を含めた南米養殖事業の利益は、ほぼ前年並み。



※2 在庫に含まれる未実現利益の調整

※1 在池魚評価損益
生簀にいる出荷前の魚
(在池魚)の想定利益

ニッスイ
グループ

